

標 題 農地利用最適化に向けて～松江市農業委員会の取組み～

(ダイジェスト)

松江市農業委員会は、県内で先駆けて、「最適化活動マニュアル」を作成して、制度の目的と推進委員の役割を周知させるとともに、本年10月からは市内18地区で「地区別会議」を開催して、地域の農業及び農地の現状と課題の見える化に取り組んでいます。

地区別会議は、事務局の松江市農業委員会、19名の農業委員と45名の最適化推進委員、松江地域農業再生協議会、農地中間管理機構、JAしまねくにびき地区本部、松江市土地改良区、認定農業者協議会、人・農地プラン検討委員、集落の代表者、松江農業普及部等からなり、18地区毎に年2回開催する計画です。

本年度の第1回目は、10月3日の朝酌地区から開催されました。会議では、事務局で作成した農地集積の現況地図を出席者が囲んで、集積を最優先で進めていきたいエリア、集積が難しいエリアに各自が意見を付せんに記入して貼っていく作業に取り組みましたが、会議の最初はとまどいも見られました。事務局の「課題の見える化」しようという努力もあって、30分もすれば図面は付せんで埋まっていき、最後に農業委員が意見をとりまとめることによって、出席者全員が本日の地区の状況を共有することができました。

農地貸借等の調整は、当事者の意向把握が必要ですが、農地の出し手と受け手の最適な組み合わせを地区関係者が一堂に会して探すことも重要だと認識されました。

当普及部では、この地区別会議を集落営農の推進の上で貴重な情報収集の機会として捉え、意見や要望等を集落営農推進プロジェクトで情報共有したいと考えています。



図面を見ながら検討の様子



農業委員によるまとめ